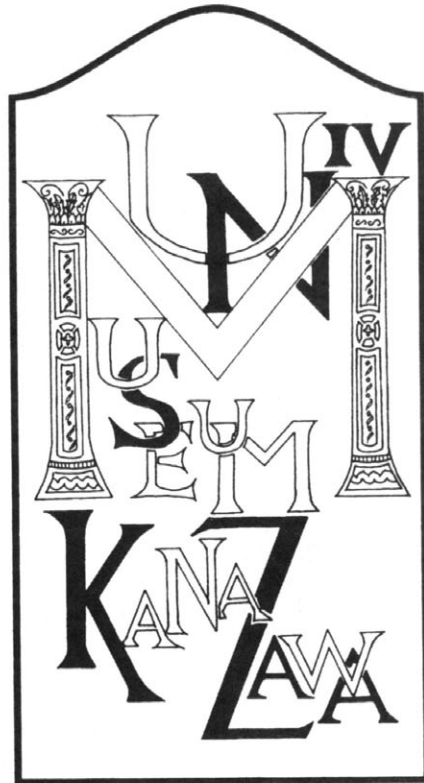


金沢大学 資料館 だより

NO. 12



KANAZAWA UNIVERSITY MUSEUM

新たな各種機器の収蔵について

将来の収蔵方針を全学レベルで検討を！

宮下 孝晴

収蔵依頼の申請を受け、資料館運営委員会はその収蔵問題で多角的な議論を重ねてきたが、ようやく新たな収蔵機器が以下の表のように決定した。

今回のような種類の（工場で量産された）機器の収蔵を検討する場合には、考古学資料や古文書、絵画彫刻などの収蔵を判断する基準とは異なった見地からの検討が必要であったことは当然だが、収蔵コンセプトのはっきりしていた「第四高等学校旧蔵物理機器」や「小型計算機」ともまた違った問題を含んでいたことも事実である。

これは現在の資料館の問題であると同時に、資料館が近い将来にユニヴァーシティ・ミュージアムとして整備されるであろう状況や第二期移転の実施を想定すれば、その問題はき

わめて深刻な様相を呈してくるだろう。金沢大学の角間移転にともなって新たに登場した付属資料館が、そうした深刻な問題に直面したということ、少なくとも運営委員会のメンバーが大きな議論の必要性を自覚したということ自体が、資料館として最初の歴史のエポックを迎えたのだと言えなくもない。

したがって、今後は「収蔵基準や収蔵方針」の将来的な策定に向けて、資料館運営委員会を中心に基本的な検討を開始し、全学的にも様々な研究領域に属する者の見解を集約していくべきだと考える。

（資料館長）

）2

・・・各種機器収蔵一覧表・・・

No	機 種	機器の説明・性能等	旧蔵
1	PLOTTER PRINTER 7245B HEWLETT PACKARD	1970年代を代表する「ミニコンピュータ」。外洋の航海システム、軍、天体・地震観測所、大学研究室など信頼性が要求される職場において使用された一時代を画す小型コンピュータ。これ以降ミニコンピュータからパーソナルコンピュータへと時代は移行していった。これはその周辺機器のひとつ。	理学部
2	GRAPHICS TERMINAL 2647A HEWLETT PACKARD		理学部
3	YOKOGAWA HEWLETT PACKARD 4490Q-002		理学部
4	TAPE PUNCH2895B HEWLETT PACKARD		理学部
5	COMPUTER 2100A YOKOGAWA HEWLETT PACKARD		理学部
6	DIGITIZER9874A HEWLETT PACKARD		理学部
7	FILMOSOUND BELL&HOWELL 16mm 映写機	磁気録音再生が可能	工学部
8	FILMOTION 画像解析機	7と組み合わせて静止画像をコマ送りで解析する。	工学部
9	HYCAM 高速度カメラ	高速ビデオ使用。 400 フィート、10~10,000 コマ/秒で撮影可能。	工学部
10	HYCAM POWER SUPPLY 変圧器	9の駆動用電源。	工学部
11	和文タイプライター 日本タイプライター	動作原理は活字盤変換。明朝体・ゴシック体による印字が可能。文字サイズは10p,12pがある。	工学部
12	トヨビュー 蛇腹式カメラ	あおりにより、映像の歪みが補正できる。	工学部

他大学の資料コレクション・2 三冊の書物

梅染 信夫

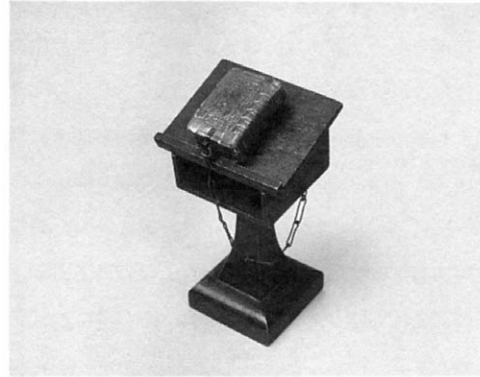
本学図書館の正式名称は「北陸学院短期大学ヘッセル記念図書館」である。この「ヘッセル」とは北陸学院の設立者の名を取ったものであるが、そのヘッセル女史が残した三冊の書物が本図書館に大切に保存されている。

その書物とは① HOLY BIBLE 引照舊新約全書(1889年, 米国聖書会社, 横浜)、② BARNES'S NOTES, THE GOSPEL VOL.1, Revised Edition(Albert Barnes 著, 1808年, Harper & Brothers, New York)、そして③ MARY GAY; OR, WORK FOR GIRLS(Jacob Abbott 著, 1865年, Hurd & Houghton, New York)の三冊である。

今、これらが本図書館に残されるに至った経緯について簡単に述べる。

明治18年、今から113年前、金沢市柿木島に生徒23名、教員7名の小さな学校が呱呱の声を上げた。北陸で初めて設置された「金沢女学校」が今日の北陸学院、そして本学短期大学にまで発展したのである。その創立者がメリー K.ヘッセルであった。

彼女の両親はドイツからペンシルバニアに渡った移民で、熱心なカトリック教徒だったらしい。メリーはドイツ・ローマカトリック系の小学校で学んだが、すべてドイツ語による教育であった。母が病弱だったこともあり、メリーは勉強の傍ら家事を手伝い、また洋裁をやって家計を助けた。卒業後も家のために働いていたが、ある日シンシナティの学校の新聞広告が目止まった。女性が自活しながら勉学するというものである。彼女は両親の反対を押してシンシナティへ出かけて行った。しかしその学校では奨学金が得られないことが分かった。失望している彼女を見てその校長がオハイオ州のウェスタン女子神学校の校長に紹介状を書いてくれた。ピ



豆本聖書台付聖書

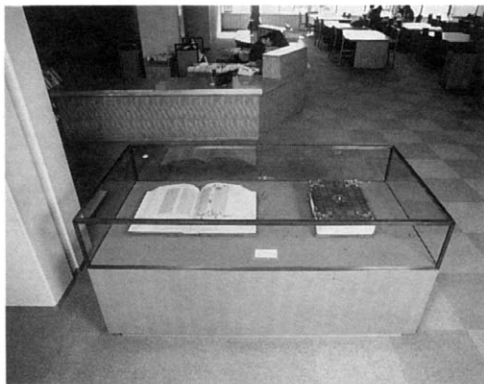
ボディ校長は彼女を一目見て入学を許可してくれた。ボディ校長の教育方針は彼女自身が卒業したマウント・ホリヨーク女子大学のものを受継いでいた。「敬虔な教養のある家庭婦人、女性教師ないし婦人宣教師の養成」である。既に25才になっていたメリーは数学をはじめ14課目、課外に音楽など6課目を4年間で修了した。授業以外の労働にも従事した。時間厳守、地味な服装など厳しい学风はそのまま金沢女学校に受け継がれた。

金沢女学校設立のために彼女を金沢へ呼んだのはトマス・ウィンという同じ米国人宣教師である。彼は、1879年に石川県中学師範学校(第四高等学校の前身)に理科・英語教師として招かれたが、女子教育のために婦人宣教師の派遣を申請したのである。

金沢女学校は開校したがヘッセルなど教師たちはまさに苦難の道を歩まねばならなかった。女子教育についての無理解、外国人に対する偏見、異質な文化への拒否反応、キリスト教を邪教とする宗教的風土。彼らは迫害の中にあって臥薪嘗胆、辛い苦しみに耐えつつ目的達成のために文字通り苦心惨憺した。米国からの援助が滞ることもあった。自分たちの住居は二次に考えて教室や寄宿舎を整えた。本国宛に出した手紙の中に何度も「厳しい寒さ」について触れられているのを見て心が痛む。

幸い理解のある親の子女が集まった。また少数の協力者も得られた。新しい教育が展開され、著しい成果が認められるようになった。

しかし一方では過労と不十分な生活条件からミス・ヘッセルは病魔に冒されることになる。肺炎。当時の衛生状態も良いものではなかった。来日して丸9年経っていた。彼女は帰国し静養した。一年程経ってやゝ快方に向かった時、彼女は医師が止めるのも聞かずに再来日した。金沢女学校は大喜び



グーテンベルグ42行聖書 '89.2.7

だった。彼女はまた熱心に働いた。しかし完治していない身体での仕事である。間もなく病勢が再び悪化し、今度こそ手術を受けなければならないことがわかった。

再来日してから1年足らず、彼女は金石から船で旅立っていった。ミス・ヘッセルが愛し、育てた生徒、卒業生たちが涙ながらに見送った。彼らがミス・ヘッセルを見た最後であった。帰国した彼女は手術をしたがもう手遅れであった。彼女は天に召されていった。享年 41 歳。その墓はロサンゼルス郊外にある。

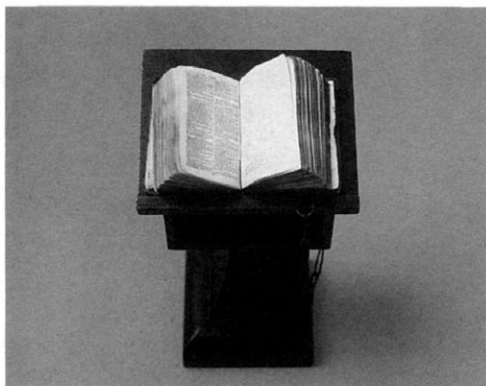
生前彼女が遺言したとおり、彼女の居室にあった書物が生徒たちに分けられた。その一部が前記の三冊である。

③はピボディ校長が日本に赴くメアリー・ヘッセルに贈ったもの。メアリー・ゲイというアメリカの女の子が、女子に固有の仕事について知っていく過程が描かれている。

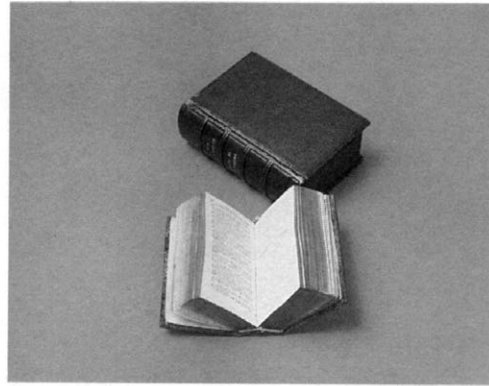
②は新約聖書の中の福音書の註解書である。ミス・ヘッセルはこれらによって聖書を研究し、「心の糧」を得たと推察される。

①はわが国で初めて出版された旧新約聖書であるが、ヘッセル先生は英語・ドイツ語の聖書と比較対照しながら「神のことば」を聴いたことであろう。その旧約聖書詩篇 111 篇 10 節の部分に他には殆ど見られない傍線が引かれてある。「エホバをおそるゝハ智慧のはじめなり」。これが本学をはじめ北陸学院全体の「建学の精神」となった。

(北陸学院短期大学ヘッセル記念図書館長)



豆本聖書台付聖書



豆本新約聖書 ギリシャ語

・ヘッセル記念図書館所蔵
キリスト教関係コレクションの中から・
☆聖書コレクション

- ・グーテンベルグ 42 行聖書
ファクシミリ版 IDION 社 1978
- ・(豆本) 聖書台付聖書
Bryce, Oxford University Press 1896
4.6×3.7cm (聖書台の高さ 14.0cm)
- ・豆本 新約聖書 (ギリシャ語)
Jannon 1628 8.8×5.2cm
- ・マイクロ版新約聖書 (口語)
日本聖書協会 1982 3.4×2.6cm
- ・ジュネーブ聖書
The Geneva Bible, 1560 ファクシミリ版
講談社 1977
- ・欽定英訳聖書
The Authorized Version, 1611 ファクシミリ版
Robert Barker (日本: 南雲堂) 1982
- ・The Kennicott Bible
Facsimile editions MS KENNICOTT・BODLEIAN
LIBRARY OXFORD 1985
- ・(口語訳)旧約聖書
新改訳点字版 全 23 巻 日本聖書刊行会
- ・(口語訳)新約聖書
新改訳点字版 全 8 巻 日本聖書刊行会
- ・The Holy Bible Containing the Old and New
Testament (点字版)全 17 巻
King James Version, 1611 American Bible
Society 1987
- ☆世界各国語訳の聖書 (281 点)
- ☆英語聖書コレクション The English Bible
1582-1899 A Collection of 62 Bibles
- ☆日本の讃美歌コレクション
・(明治版) 讃美歌
覚醒社, 教文館 1903 (明治 36) 他 3 点
- ☆アジアの讃美歌コレクション
・Nepali Hymnal
Nepali Christian Leterture Society 1967
他 5 点
- ☆英米讃美歌集コレクション HYMN-BOOKS OF GREAT
BRITAIN AND AMERICA 1800-1940 A Collection of
250 titles
- ☆ヴァチカン教皇庁立図書館蔵本ファクシミリ版
コレクション(12 点)

以上、「キリスト教図書目録」増補改訂版('96 年発行)を通し、その内容を公開、広く一般の利用にも供している。

世界の博物館・2

キュー・ガーデンの植物資料館

清水 建美

ロンドンから地下鉄中央ラインに乗って西南方向にテムズ川を渡ると、キュー・ガーデンという駅につく。キュー・ガーデンつまり王立キュー植物園は、1759年に創立、1841年に王立となり、今では面積120ha、温室76棟、培養植物25000種類を擁する世界最大規模を誇る植物園である(写真1)。この植物園の重要な組織の一つに、園の一角に建つハーバリウム(植物資料館)がある。

キュー植物園の設立の目的は、初代園長ウィリアム・フッカー卿以来、植物の分類・同定という基礎的な研究にあり、一般に考えられている公園としての役割は、むしろ二次的なものとされている。このため、園とハーバリウムは一体となって研究を進めており、園内にふんだんにある生きた材料植物が、どんどんハーバリウムに回されてくるし、特定の生きた植物が見たいと申し出れば、実に親切に調べ上げ、案内してくれる。私は、このハーバリウムに過去2回長期滞在したことがある。

以前は、ハーバリウムの入館には、ガードマンのチェックを受け、署名をしたものだが、最近、定員削減のためかガードマンはおらず、署名後に月～金の曜日ごとに色を変えた円形のワッペンを胸につけて入館するようになっている。土日は館長の許可証をもらっておけば、とにかく入館することができる。建物は地上4階、地下1階の煉瓦づくり(図書室棟は地上3階、半地下1階)、ほぼ理学部の建物の4階までのスペースすべてが、植物標本、図書・文献資料の収納室に、1部が図書室やスタッフの研究室になっていると思えばよい。収納済みの植物の押し葉標本は650万枚、年々4万枚が増加し、未収納標本20万枚というから、理学部のハーバリウムの収納済み標本20万、私の在職中の標本増加数年間約2000枚とは比較にならない。

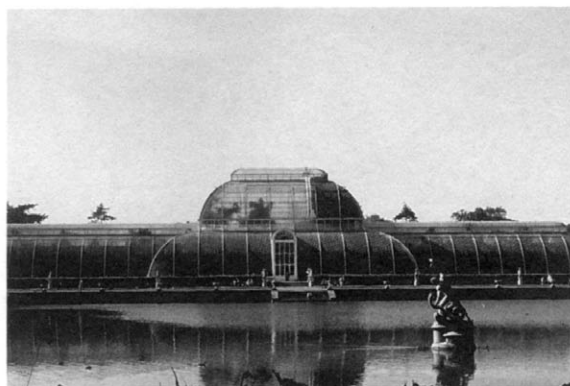


写真1 王立キュー植物園の大温室 パーム・ハウス

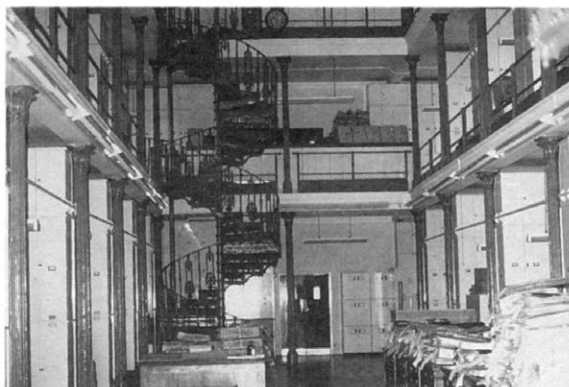


写真2 キューの植物資料館(ハーバリウム)の内部の一端

建物の内部は、窓側の左右両側にコの字型に備えつけられた標本棚が天井までびっしり並ぶ(写真2)。若くて個室ももらえない研究スタッフと来訪者は自分の専門とする植物標本のあるベイ(標本棚に囲まれたコの字形のスペース)に置かれた長机を仕事場とすることになる。私の1994年の滞在時には、世界各国から毎日平均60名程度の来訪者が標本閲覧のためにやって来ていた。標本は一定の区分ごとに管理責任者の研究官と補助職員が配置されていて、どんどん標本を納めていく一方、親切に来訪者の世話をやいてくれる。

生物の種類を正確に知ることは、あらゆる生物学の研究の出発点である。ここには正式のスタッフつまり植物分類学者は75名、退官スタッフや外国人スタッフなどの協力者は30名が常駐し、地球上のすべての植物が同定できる体制が組まれている。私が感心したのは、退官後協力者となった旧スタッフが何人も依然として個室を使用していることと、90才にもなる老研究者が自由に訪れて標本や資料を閲覧していることである。聞けば、ハーバリウムの仕事には高齢のエキスパートやスペシャリストが欠かせないからだという。こうした状況は、パリの国立自然史博物館でも同様であった。

歴史的にみて、キューの植物資料館と日本との関係はどうであろうか。1860年頃、イギリスからVeitchやFortuneらの園芸家が相次いで来日し、植物採集を行ったが、キュー植物園からはWilfordが1860年の夏にやって来た。一方、オーストラリアの旅行家Hodgsonは1859年6月に来日、翌々年の3月まで長崎および函館の領事として滞在し、この間植物を採集してキューに送った。Hodgsonは日本で見聞したあらゆる事柄をまとめ、1861年に「日本滞在記」A Residence at Nagasaki and Hakodate in 1859-1860, with an account of Japan generally をロンドンで出版した。この本には、植物関係では、北海道の針葉樹林、チャ・クスノキ・ウルシなど

川口 法男

大英図書館の修復室見学の後、ビクトリア&アルバート博物館の展示室で柴田是真作の月次蒔絵印籠など日本を代表する工芸の粋を観ることができたが、あいにく修復担当職員の休日のため修復室を見学する事はできなかった。そして翌日、私達の研修の大きな目的の一つである大英博物館に向かった。大英博物館は 1753 年の開設である。これは東京国立博物館の前身である文部省博物館開設より 120 年も先んじている。大英博物館の収蔵量は日本美術品だけで 21000 点を超え、その内絵画が 15000 点以上を占める膨大なものである。同館東洋部部長のローレンス・スミス氏は「今や大英博物館は日本美術の研究者にとって一大宝庫である。そして現在では館蔵品だけで鎌倉時代から明治中期までのほとんど全ての分野を網羅した秀作展を開く事ができるようになった。」と在外日本の美術の解説の中で述べているほどである。



写真1 大英博物館東洋部収蔵庫

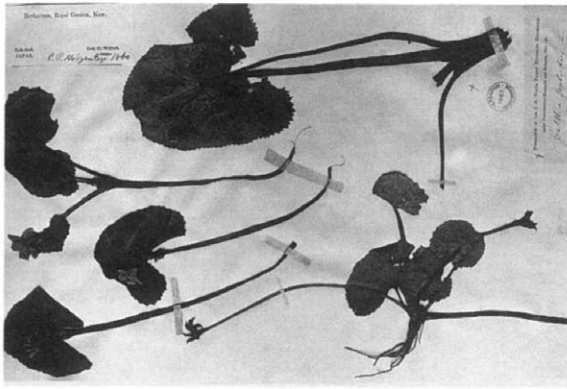
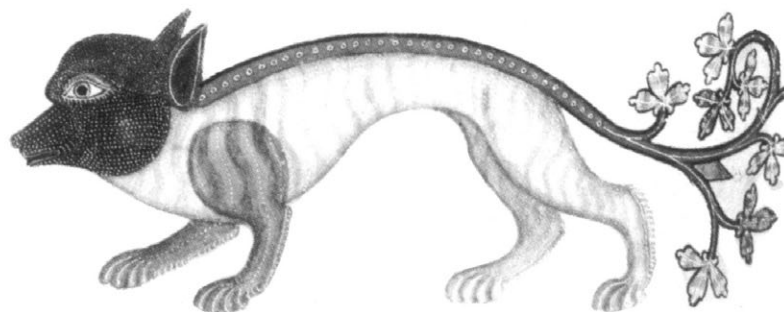


写真3 キューにある Hodgson 採集の日本のリュウキンカの押し葉標本

の記事があるが、中にはヒグマのステーキの話まであって面白い。実は、この本の末尾にフッカー-W.Hooker が、「日本植物総目録」Catalogue of Japan Plants(327~350 頁)を発表しているのである。それは、本誌 11 号に紹介されているツェンペリー-Thunberg の「日本植物誌」をはじめとしてそれまでに発表されたすべての植物を網羅し、さらに Hodgson や Wilford のほか、当時のイギリス領事 Alcock などから送られて来た標本の同定結果を含み、シダ植物と種子植物合わせて約 1600 種が記録されている。写真3に Hodgson が採集したリュウキンカの押し葉標本を示す。ラベルには、Hakodadi.Japan.C.P. Hodgson Esqr. 1860 と書いてある。キュー植物園は、Wilford に続いて採集家 Oldham を日本に派遣、彼は 1861 年に長崎に到着した。

ハーバリウムからは、植物分類学関係の出版物も多数出されている。世界中の種子植物をリストアップした Index Kewensis、記載分類学では世界的に権威のある専門誌 Kew Bulletinをはじめ、Kew Scientist Magazine、Kew Magazine、Kew Record などである。つい2日前、査読のため Kew Bulletin への投稿論文一篇が、私のところに届いたばかりである。

(金沢大学理学部名誉教授)



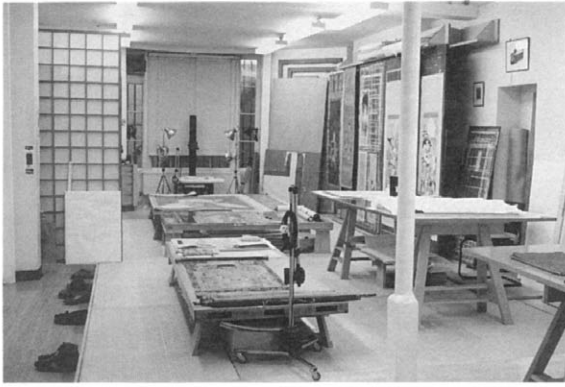


写真2 大英博物館東洋部修復室（現在の修復室は再建され'97年春から平山スタジオとして出発している）

私達はまず東洋部の収蔵庫を見せてもらうことになった。たくさんの掛軸や巻物がきちんと整理された形で収納ケースの中に収められていた。が併しよく見るとそこには箱というものがほとんどない。日本では、掛軸や巻物などは桐箱に入れて保管されるのが常識で、更に大切なものであれば二重箱に入れられ、外箱は漆塗りであることが多い。三重箱という例もある。桐材は非常に軽くしかも燃えにくいといわれている。そして収納してしまえば外側の湿気のほとんどが遮断される。これらの利点に素材の美しさも加わり日本では「桐箱入り」といえば高級感をイメージする言葉にまでなっている。

しかるに大英博物館の収蔵庫には、桐箱というものがほとんど見当たらない。係の人の説明によれば或る時期までのイギリス(ヨーロッパと置き換えてもさしたる違いはない)では桐箱は単なる箱でしかなく、例えばお菓子を入れた紙箱程度の扱いしか受けず、ついには暖炉の灰と化したということだ。ましてや日本では中身の真贋にまで影響力を発揮する箱書きなるものは何と解釈されたものか今更知る由もないが、それこそ表裏一体の運命を辿ったことだけは疑う余地がない。併し現在では過去の反省と新たな認識から桐箱が徐々に作られ始められている。とはいえ桐箱などは日本に発注する他なく、数も多いので大変なことだろう。収蔵庫見学の後修復室を見せてもらった。一口に修復室といっても、大英博物館にはいくつもの部門がありそのスタッフの総勢は90数名にも及ぶ。私達が見せてもらったのは東洋部の修復部門である。私達が訪ねた時にはインド・チベット・中国そして日本の絵画などを修復中であつたが作品そのものを撮ることは許されず、全体写真なら許すとの事であつた。英国は他のヨーロッパ諸国よりどこか厳格さを重んじる国であるらしい。見学許可を得るまでに何度となくスミス氏に手紙や電話でコンタクトをとる必要があつたり、許可が下りてからでもスーツにネ

金沢大学資料館だより No.12
クタイ着用厳守の注文がついたりした。修復室内部は畳敷きで厚さ10cmほどの檜の作業板などが置かれ、障子式の仕切り戸がはまっているといった風で、その印象は余りにも日本的であつた。それもそのはずで、ここは今から17年程前に私の先輩である英国人、ポール・ウィルス氏の指導によって造られた修復室で、畳も作業板も当時京都から運ばれたものだったのである。そして壁面の一角には私達が日頃使っている刷毛の類いがたくさん掛けられていた。欧米に於いては東洋美術品の修復には緻密で繊細な日本の技術が大きな役割を果たしているが、ここでもその技術が確かに息づいているのを窺い知る事ができる。例えば小麦粉からとった澱粉糊を水のようにうすめて使用する技法は日本から学ぶより他にない。日本人の勤勉さや繊細さが可逆性という問題に対して最も効率の良い方法を生み出してきたのだろう。そういう接着剤の一つに古糊がある。古糊とは大寒の冷たい地下水で炊いた糊を大きな瓶に入れて5年から10年貯蔵しておいたもので、粘着力が低く黴の発生率が少ないといわれている。これは中国が発祥地だという説があるが定かではなく、現在使用しているのは日本人だけである。しかも文化財修復以外には余り用いられていないのが現状である。

この古糊の瓶を大英博物館の元コークス置き場で眼にした時の驚きや感動は形容しがたいものがある。使っているのを人づてに聞いているのと実際に瓶を眼にするのとでは天と地ほどの差がある。私はポールさんが英国へ引越をする時に十数個の古糊の瓶を荷造りして船便で送る手伝いをした事を思い出した。それがその時の瓶であるかどうかの確認はないが日本の瓶が異国の地の博物館に置かれているのを不思議な気持ちでながめていた。

(金沢文化財保存研究所長)

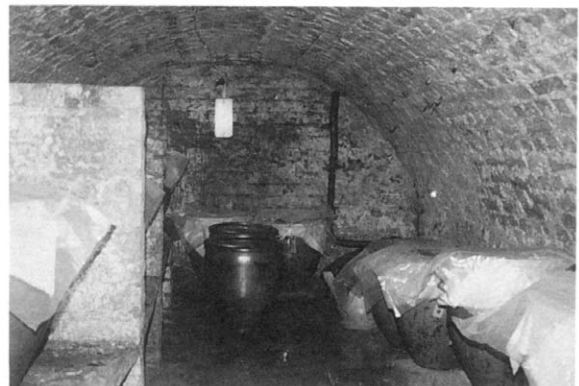
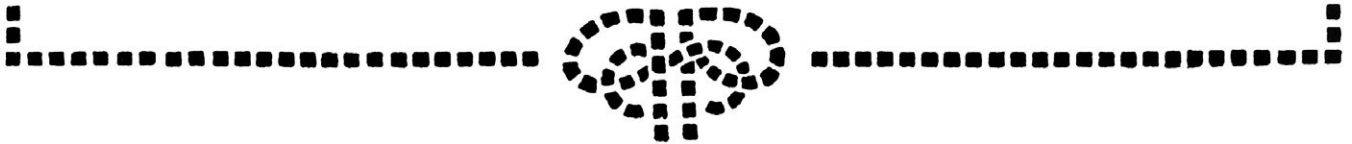


写真3 旧コークス置場に貯蔵されている古糊の瓶

資料館彙報 (平成10年3月～平成10年9月)

- 3月:「資料館便り」No.11を発行した。
- 6月:平成10年度第2回資料館運営委員会において各種機器収蔵検討小委員会が発足した。
- 6月:平成10年度第3回資料館運営委員会において「資料館紀要」第1号執筆候補者5名が承認された。
- 7月:石川県立博物館のホームページに「須恵質人物埴輪」の写真掲載を許可した。
- 7月:「石川師範学校同窓会110年記念誌」掲載のため、額「明倫堂」「経武館」 絵画「富士山」 書「養正」の写真撮影が行われた。
- 8月:平成10年度第5回資料館運営委員会において、各種機器収蔵検討小委員会の報告が承認され、各種機器12点の収蔵が決定した。
- 9月:珠洲市立珠洲焼資料館特別展「祈りよ、届け!一経塚と珠洲焼」のために、高松余地経塚出土珠洲焼壺、鉢各1点を貸し出した。



金沢大学資料館
KANAZAWA UNIVERSITY MUSEUM

〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学附属図書館内
TEL (076)264-5215
FAX (076)234-4051

表紙写真:小中屋文書「當午五人組御仕置連判帳
加賀越前国白山麓十八箇村 須納谷村」
宝暦12年3月